

## 写真アルバム 若狭・北近江国境の赤坂山・三国山

湖北 古代鉄の郷 マキノの北の壁にそびえる赤坂山・三国山の連山 2005.8.29.

朝鮮半島・日本海側から琵琶湖・近江へと続く古代和鉄の道・Iron Road



福井県若狭嶺南地方と湖北とを分ける連山である。

若狭の海岸からこの山塊を越えて琵琶湖・近江を経て、大和・京都に出る大動脈で、古代の北陸道は琵琶湖からマキノの里を北に分け入り、この山塊の東を越えて敦賀から北陸へ抜けていた。

古代 朝鮮半島を船出して、若狭海岸からこの山を越えて琵琶湖から大和へ多くの渡来人や文化が伝来した道でもある。また、近世まで この山塊の東西の肩を越えて若狭につながる古道が通る生活道路でもあった。

今はこの山塊のもっと東側で敦賀へ抜ける西近江街道や塩津から越える国道8号線が大動脈となって、この山塊周辺は琵琶湖に面した静かな山郷となっている。

高くはないが、雪の深い湖北にあって、雪解けには花が咲き誇る花の名山としてよく知られた山である。麓には 関西では良く知られたスキー場のあるマキノ高原が広がり、湖岸は桜の名所海津大崎である。

今年の早春 雪が見たくて 古代 鉄の郷 北マキノを訪れた時この山郷の北の壁となって、べつとりと雪をつけていた山である。この山塊の琵琶湖側周辺からは 古代 鉄鉱石が産出され、朝鮮

から海を渡ってきた渡来人たちが中心となって、製鉄を一番先に初

めた場所のひとつと考えられており、今も古代製鉄遺跡群が残り、また、数々の渡来人の即席が残っている。初期大和王権の中で、継体天皇が北陸からこの地にかけての鉄を背景にした豪族の出であったのも上記した理由による。 また、朝鮮半島から海を渡ってきた渡来人たちはこの山塊を越え、近江には数々の渡来人の



滋賀県 琵琶湖周辺の製鉄遺跡群

里が出現し、大和王権の成立に数々の役割を演じた。  
 そんな 思い入れもあって 是非とも登ってみたい山でした。

2005.8.29.まだ暑い夏の終わりの早朝に出て、湖北マキノに出かけました。

前回 マキノを一面雪の原でしたが、田圃には稲穂が揺れ、緑に包まれた高原。シンボルのメタセコイアの並木道も緑に包まれていました。



マキノ メタセコイアの街道

行程はガイドブックにあるとおり、マキノ白谷の奥黒河越から尾根に取り付いて、三国山から稜線を明王の禿から赤坂山を越えて栗柄越からマキノ高原へ下る約 12KM のコース。

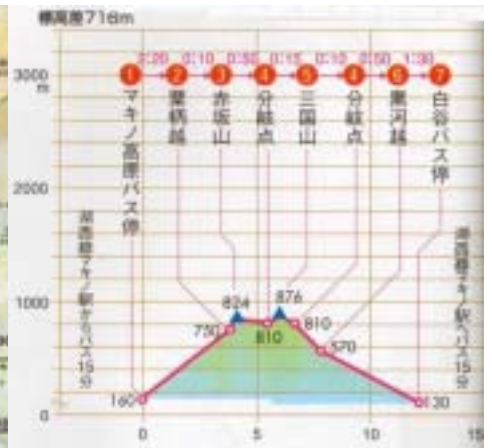
このマキノ一帯の谷筋には製鉄遺跡群が散在する古代の製鉄地帯。

三国山・赤坂山の肩にある

黒河越・栗柄越は日本海側から近江・大和への古道。大陸から数多くの渡来人が数々文化を運んだ文化伝来の道で、鉄の技術もこの道を通して伝来したに違いない。この峠に上がることも今回の目的のひとつ。

JR マキノ駅からタクシーで在原集落への分岐まで行く。敦賀へつながる黒河越の県道 533 号線であるが、ここから先は道が荒れていてタクシーも登ってくれない。

周りの山を眺めながら 人っ子一人いない広いゴロゴロの登り道を黒河越の峠まで登ってゆく。



三国山・赤坂山 walk コースマップ ガイドブックより



白谷から黒河越登山口へのゴロゴロ道

**黒河越周辺で**



県道 533 号線 敦賀へ通じる黒河越県道 533 号線と三国山・赤坂山登山口への分岐

約 40 分ほど車道とはなばかりのまったく通行のない県道を登った峠が、三国山・赤坂山 黒河越の登山口。左の尾根によく整備された登山道がつき、案内板・トイレが整備されている。

この周辺の地質は古生層にその後貫入した花崗岩との接触帯が広く分布し、これらの接触帯には鉄鉱床の存在が知られており、この地周辺の鉄鉱石が日本最初の製鉄に使われた可能性があると考えられている。

当時、製鉄技術の習得と鉄の自給が最大課題であった大和連合王権を支える豪族たちは 大陸・朝鮮半島から大和への主要交通路であったこの周辺で 多くの渡来人と一緒に、製鉄原料となる鉄鉱床を必死になって探したに違いない。そして、この地を含む湖北の地で鉄鉱石を発見するや、 渡来の製鉄技術者を集め、製鉄すなわち鉄素材の製造をこの地で始めたと考えられる。マキノはじめ、周辺地域には古代の製鉄遺跡が散在し、製鉄技術を持つ朝鮮半島特に新羅と関係深い渡来人の根拠地であった。また、この地の鉄鉱石は湖北から近江・大和へも運ばれ、大和王権の鉄支配・日本鉄自給の始まりを迎える。

三国山と赤坂山の間であって、麓からみると荒々しい岩肌をさらしている明王ノ禿もそんな花崗岩の路頭部である。

しばし、登山口の端に座って、そんなイメージを黒河越の道に膨らませるが、今はまったくそんな気配もなく、忘れ去られた道筋 静かなものである。



牧野からの明王ノ禿(中央)と赤坂山(左)三国山(右)



マキノ・西浅井製鉄遺跡群と花崗岩地帯

### 三国山から明王ノ禿へ

黒河越の登山口より、尾根筋の南側に沿ってつけられた林の中の道を登ってゆく。南側に幾重にも重なった山々が時折、遠望できる。



黒河越登山口から見え隠れする琵琶湖側 南東部に広がる山々

40 分ほどで、南側に突き出た枝尾根の先端部に出て、南や東側の展望の利く。周囲の山々が深い谷越しに見えるが、三国山や赤坂山は尾根筋に隠れて見えないが、風が吹き抜けて気持ちがいい。

この先端部を回り込んで、また、林の中に下ってゆく。



ちょうど三国山・赤坂山の主尾根へのトラバースでこのあたりはちょうど尾根に囲まれた湿地帯になっていて、板敷きの道が続く。正面にはどっかりと三国山の尾根がどっかり座り、後ろには遠く 湖北・美濃の山が浮かんでいる。



### 東側 福井県境の山々

見通しのきかぬ湿地帯を下ってゆく。キンコウカの保護地の札が掲げられていてきつと花の季節には素晴らしいのだろうが、今は一番花のない季節である。一番降りたところを一筋の水が流れていて、ベンチが置かれて縦走路の休憩場となっている。ベンチに一組中年のハイカーが座っていて、今日はじめて見る人である。



ここから、三国山の三体への登り返して 10 分ほ

### 三国山の尾根下の沢に広がる湿原

どで、三国山との分岐に出る。分岐を 15 分ほど登れば三国山の頂上であるが、あまり展望が開けないと聞いて、そのまま縦走路を明王ノ禿へと登ってゆく。視界は開けないが、灌木の緑が変化に富んで素晴らしい。



### 三国山の尾根に広がる緑豊かな樹林

30 分ほどで林の上に空が見えだし、荒々しい直立の岩肌が連なる明王ノ禿が見え出す。

灌木帯を抜け、その稜線に取り付くと、眼下にはマキノから琵琶湖遠望の眺望が開ける。

左右均整のとれた緑の山体の赤坂山が明王ノ禿の岩肌の向こうに見える。

東側に切れ落ちた明王の禿の山肌を見ながら、ガレ場のざらざら道を登りきる明王ノ禿の頂上部。

南北に約 300メートルに渡って、東側は垂直に切れ落ち、西側も急傾斜のやせ細った稜線が続くが、崖には鎖



の柵が取り付けられ、よく整備された縦走路で心配はない。

### 明王ノ禿の岩峰とその背後の赤坂山

麓から見ると頂上部は馬の背状の平坦に見えるが、幾つもの岩山の重なりで起伏がある。まさに花崗岩帯鉄山である。そして、縦走路からはさえぎるものもなく、360度の展望が楽しめる。



明王ノ禿より マキノ・琵琶湖



北側の三国山を望む



明王ノ禿の縦走路



明王ノ禿の岩山の間

南へ岩山越しに赤坂山の縦走路が伸び、東側眼下にマキノ・そして琵琶湖がかすんでいる。マキノのメタセコイアの並木道がよく見える。北側から西にかけては若狭側には幾重にも重なった山々そしてずどんと大きい三国山の山体が横たわっている。日本海は見えないが、このやせ尾根を日本海から琵琶湖へ渡る風が心地良い。

## 明王ノ禿から赤坂山へ



明王ノ禿から赤坂山への縦走路 2005.8.29.

明王ノ禿から赤坂山へは一旦下って暗部に下りて、そこから真っ直ぐ頂上へ登っていく。



熊笹で覆われた赤坂山への登り ススキの穂が揺れていた

明王ノ禿の端から急なガレ場をくだるとまた、林の中に入り、一気に鞍部まで20分足らずで下る。

そこからは、一面熊笹で覆われた赤坂山の頂上を見上げながらまっすぐ上ってゆく。

なだらかな山ではあるが、やっぱり苦しい。頂上はみえているのですが、あえぎあえぎ 約40分ほどで頂上に立つ。ここは文字通り何もさえぎる間のなく、360度の展望が開ける。



赤坂山頂上からの眺望 (北・東・南方面) 2005.8.29.



赤坂山頂上からの眺望 北側明王ノ禿への縦走路（左）とマキノ・琵琶湖（右）



赤坂山頂上からの眺望 赤坂山から南側 マキノ・粟柄越 2005.8.29.



メタセコイアの並木と山を越える送電線

赤坂山の眼下には湖岸から細長く南北に伸びるマキノが遠望され、メタセコイアの並木道が田園地帯の中にはっきり見える。そして、その背後には幾重にも重なる山々が遠望され、それらは西浅井の古代製鉄地帯である。赤坂山の南側だっ広い山体の鞍部には琵琶湖側から山越で日本海側へ渡る送電線。美浜の原子力発電所から近畿へ電力を運ぶ大動脈がみえ、そこが粟柄越。古代から数々の文化を運んだ大動脈・鉄の道が今 電力の大動脈として蘇っている。

誰一人いない山頂に座って、粟柄越の峠をしばし眺めて、山腹に揺れるススキの穂、山を越えて行く心地良い風を

感じながら、峠を越え行く古代の人の群れをイメージしていました。

### 粟柄越の峠から古道をマキノ高原へ下る

赤坂山の頂上から、ススキの揺れる中を送電鉄塔を目印に鞍部まで、10分ほどで下る。振り返ると円弧を描いた山の輪郭にちょこんと頂上の標識のシルエット。背の高い草やササの中に大きな岩が見えてくるともう鞍部。鞍部は琵琶湖側のマキノから粟柄越 福井県美浜町への古道とさらに南の大谷山へと続く縦走路の十字路。そして 先ほどの大岩にはお地蔵さんが彫られていて、粟柄越の古道を見下ろしていて、この道がかつての生活道路であったことを忍ばせる。



ススキがゆれる笹原を栗柄越の鞍部へ



赤坂山の南側の鞍部 栗柄越の峠 周辺

縦走路から東にブッシュの中を栗柄越の古道に入り、古道をマキノ高原へ下る。  
道は程なく、すっぽりと自然林の中に包まれ、下ってゆく。



栗柄越 マキノ高原へ下山 よく整備された道の両側に山野草がびっしりの自然林



視界はまったく利かなくなりましたが、林の緑が美しい。また道の両側には苔むす岩や山野草の緑がびっしり。花の季節ではなくて残念だが、この山道 花の季節には本当に山野草の花の回廊になるのだろう。鞍部から、約40分ほど山肌を下って、沢筋に入ったところに石畳の道が少しの区間ではあるが現れ、古道の痕跡を残している。1時間ほど下るとマキノ高原のスロープの向こうにメタセコイアの街道筋が大きく見えるようになって、ひとくたけで マキノ高原のスロープに出る。振り返ると今下ってきた織る筋の背後に隠れてちょこんと赤坂山が顔を出している。



古道に残る石畳



マキノ高原近く



マキノ高原

マキノ高原の広いスロープを突ききるとマキノ高原のバス停にでる。バスが出たところで、1時間以上待たねばならず、また 前回着た時と同様 北牧野からメタセコイアの街道を抜けて、JR マキノ駅まで、約1時間30分 Walk。

おかげで、暮れてゆく赤坂山のシルエットを眺めながらのメタセコイアの街道を独り占め。

すばらしい山里の夕景に出会えました。

この山里の周囲の谷では、古代 たたら製鉄が営まれ、今歩いているこの街道筋を日本海側から三国・赤坂の山を越えて渡来人を含め、多くの人が往来し、人・物・文化伝播交流の道であった。

その中心は「鉄」 日本最初の製鉄 鉄素材の製造もこの道を通して 始まったのではないか・・・そんな「和鉄の道・Iron Road」のロマンをさらに掻き立てる Walk でした。



北牧野からマキノ駅へ 夕闇の赤坂山を眺めながら walk

2005.8.29. 鉄の里 マキノの夕景の中で  
Mutsu Nakanishi

赤坂山・湖北マキノ写真集 2005.8.29.



北近江 マキノ町 メタセコイヤの並木道 2005.8.29.



赤坂山 栗柄峠 登山道より マキノ町 メタセコイヤの並木道 2005.8.29.



北近江/若狭国境

赤坂山 walk 2005.8.29.

古代北近江産鉄の地 マキノ

黒河峠登山口-三國山縦走路で 2005.8.29.

白谷温泉-黒河越-黒河峠登山口から 三國山-明王秀-赤坂山-草積越-マキノ高原  
 黒河越 北近江 琵琶湖湖畔 マキノから三國山の北を越えて 若狭 美濃への古道  
 草積越 北近江 琵琶湖湖畔 マキノから赤坂山の南を越えて 若狭 美濃への古道



マキノの街から奥琵琶湖 赤坂山縦走路 三國山-明王秀 で 2005.8.29.



明王虎の背後 赤坂山を望む 2005.8.29.



赤坂山を明王虎より望む 2005.8.29.



赤坂山 縦走路より マキノの街 海津大滝・穂尾尾崎を望む 2005.8.29.



古代 北近江 鹿野のマキノ・西浜井の山郷を望む 赤坂山 縦走路より 2005.8.29.



赤坂山 山頂より三田山の眺望 2005.8.29.



赤坂山南の鞍部 栗柄峠周辺 岩に刻まれたお地蔵さんがある 2005.8.29.



夕暮れの赤坂山と三国山 知内川の土手より メタセコイアの並木 2005.8.29.



夕暮れのマキノ 2005.8.29.